

第 66 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：湿地環境の順応的管理及び、'伝える'を学ぶ—

10月の研修会は、引き続き湿生生態園の植生管理作業と、11月に行われる公園まつりで実施予定の市民参加型プログラムのシミュレーションや検討を通して「伝える技術」を学ぶ研修を行いました。



谷戸山公園の田んぼは無事、稲刈りを
終えていて、稲掛けされていました。



まずは、初めて参加される方にも、しっかり
作業の意味を理解してもらえよう、
講師から研修内容の説明があります。



午前中は、湿生生態園の管理作業から
スタートです。



多様な湿生植物が暮らしやすい環境を
目指すために、繁茂しすぎた背の高いヨシを
刈り、他の植物にも光が当たるようにします。



春からヨシの管理を続けてきた成果でしょうか。光が入り、明るくなった場所では、
ミゾソバ(左)や、アカバナ(右)が、きれいな花を咲かせていました。



公園利用者にも気持ち良く過ごしていただくため、作業後に観察デッキの清掃をするのも、公園管理の大切な作業です。これで午前の作業は終了です。



午後は、11月28日に行われる公園まつりのイベントの企画を、3つの班に分かれてシミュレーションしてみるようになりました。



こちらの班では、ススキ刈りの後に植生調査を行った野鳥の原っぱにて、
土壌生物や草地で暮らす生きものの観察を行うようです。
下見で行った時も、コジュケイやコカマキリなどを見かけることができました。



こちらの班は、樹林管理をしている場所で間伐体験と、その間伐材でクラフトをするようです。
見本として、使いやすそうな箸が出来ていました。



こちらの班は同じく樹林管理地で、どんぐり探しと、それらを利用したスケッチなどをするよう
です。まだどんぐりは少なく、見つけづらかったですが、1ヶ月後にはシラカシ、コナラなど、
今年実ったどんぐりがたくさん落ちている事でしょう。



その他に、拾った葉やキノコなどで、コラージュを作成してみました。
大人でも夢中になって、あっという間に時間が過ぎてしまいますね。



当日、これらのプログラムを体験してくれた地域に方々が、管理作業と一緒にやってみたい！
と思ってくれたら嬉しいです。そのためには、維持管理作業の意味や、そのことで守られる
環境や生きものの事などをしっかりと伝える必要がありますね。



最後に、講師からまとめと質疑応答などがあり、
今回の研修会は終了です。



今回出会った生きもの達です。左から、産卵間近のオオカマキリ、成虫で越冬するツチイナゴ、
イラクサの葉の裏でたくさん見つかったフクラスズメの幼虫です。

イベントまであと1ヶ月を切りましたが、だいぶ企画の中身がかたまってきました。地域の人々に、谷戸山公園の維持管理活動の意味や、楽しさが伝わるような企画になってきています。ピオ
トープ管理士に必要とされる、インタープリテーションを学べる良い機会だと思っておりますので、ぜ
ひご参加ください。